

ながさき森林環境保全事業の成果の検証報告

平成29年1月25日に開催された「平成28年度 第3回ながさき森林環境基金管理運営委員会」において、長崎県林政課より、「平成27年度ながさき森林環境保全事業」の実績を主とした説明を受け、ながさき森林環境基金管理運営委員会として、成果の検証を行いましたので、以下のとおり報告します。

1. 未整備森林緊急整備

森林経営計画区域内の手入れ不足の森林を健全な状態へ誘導することを目的として実施されており、27年度は、600ヘクタールの目標に対し、年度内の実施済みが327.22ヘクタールで、54.5パーセントの達成率となりました。搬出間伐の増加により目標を達成できなかったものと考えられますが、森林が利用期にさしかかり、低質材の需要が増加していく中、伐捨間伐だけでなく搬出間伐による未整備森林の解消についても進めていく必要があると考えます。

2. 環境保全林緊急整備

市町が公益的に重要と位置付ける森林や保安林など、私たちの生活にとって特に重要とされる森林の内、荒廃した人工林を対象に事業が実施されており、27年度は、738ヘクタールの目標に対し、73.58ヘクタールの実績と、10.0パーセントの達成率となり、目標は達成されていません。

4年間で2637haの目標に対し、959.64haの実績で36.4パーセントの達成率となっており、一定整備を進めているものの年々調査等に時間がかかり事業が進んでいない状況にあります。未整備森林はまだ多く存在することから、森林の公益的機能を持続的に発揮させるために、制度の見直しの検討が必要であると考えます。

3. 林内路網緊急整備

森林整備を推進するために不可欠な作業道の整備について、効率的な路網配置を行う森林経営計画を事業要件とし、森林所有者の負担軽減を図るため、国の補助事業とあわせて実施されており、27年度は、130キロメートルの目標に対し、年度内の実施済みが131.726キロメートルで、101.3パーセントの達成率となり森林整備の基盤となる作業道の整備が進んでいると判断されます。

今後も、搬出間伐や未整備森林の整備を進めていくため、引き続き計画的な路網の整備を実施していく必要があると考えます。

4. しまの間伐促進

計画的な森林整備に伴い発生する間伐材を島外に出荷するための海上輸送費について、一定の支援を行うものであり、27年度は、5,370立方メートルの目標に対し7,814立方メートルの実績と、145.5パーセントの達成率で、間伐材の島外出荷が進むことで森林整備も計画的に進んでいると判断されます。第2期より島外出荷の取組みを始めた五島地区においても取組みが定着してきており、離島の多い長崎県において島外出荷に対する

支援は引き続き行う必要があります。

5. ふるさとの森林づくり（市町提案型事業）

ながさき森林環境税の趣旨に即した地域の独自性と創意工夫による多様な取り組みを支援するものであり、27年度は、15件の取り組みを目標としていたのに対し、26件の実績と、173.3パーセントの達成率で、市町の事業として、地域独自の取り組みがおこなわれていると判断されます。しかしながら、事業を活用していない市町もあることから、すべての市町に取り組んでいただけるよう、働きかけが必要です。

6. ながさき県民参加の森林づくり（制度型）

自立した活動を行える森林ボランティア団体等を育成していくため、森林ボランティア登録団体、小中高校生、緑の少年団が実施する活動について補助するもので、27年度は、10件の活動を目標としていたのに対し、6件の実績と、60.0パーセントの達成率となりました。県民参加の森林づくりについては、同様の国の事業「森林・山村多面的機能発揮対策」や「ふるさとの森林づくり（市町村提案型）」において実施が可能となっており、それらの事業での取り組みを進めるとのことですが、対象とならない事業については引き続き補助を行っていくとともに、未活動団体については働きかけをおこなっていく必要があります。

7. その他

森林に対する県民意識の啓発を図るため、集落の人を巻き込んだ里山林の整備や緑の少年団など森林で活動する子供たちが、活動内容を広く県民に発信する機会の創設、公共建築物などでの県産材の利用拡大などを進めるとともに、森林整備についても継続的に推進していく必要があります。

平成29年2月16日

ながさき森林環境基金管理運営委員会

委員長 吉田 謙太郎

